

フィジカルアセスメント臨床実習の概要

区分	内 容 等
実習科目名	フィジカルアセスメント臨床実習（選択科目）
開講年次	2年次後期～3年次前期
実施時期	90時間、大学院生の希望に基づき、大学院臨床実習指導教員と受入病院（医師、薬剤師）が協議の上決定する。
実習時間数	事前：（オリエンテーションを含む）5時間 臨床実習80時間 事後：臨床実習総括レポート作成と報告会等、5時間
実習先	臨床実習実施機関：以下の連携協力医療機関のうち、1箇所 ① 国立大学法人三重大学医学部附属病院 ② 三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中央総合病院 ③ 三重ハートセンター ④ 社会人大学院生が勤務する医療機関
実習目的	① 薬剤師が関与する医療チームに参画し、フィジカルアセスメントを活用した薬剤の副作用を未然に回避するために必要な手法や技術を修得する。 ② 臨床現場で生じる薬剤関連の問題点を大学院博士過程の研究課題とし、その解決に向けた研究を行う。 ③ 臨床現場における迅速簡易検査機器（POCT：Point of Care Testing）の実践に必要な技術を修得する。
到達目標	① フィジカルアセスメントを活用した薬剤副作用の未然回避の手法等を修得する。 ② 臨床現場における業務課題や問題点に基づいた研究課題を設定し、それを解決する能力を修得する。 ③ 迅速簡易検査機器（POCT）を活用した受診勧奨を実践できる。
実習内容	① 提携医療施設のチーム医療に参画し、様々な臨床現場での医療やカンファレンスに参加し、先進的な医療現場で必要とされる薬剤師の役割を理解する。また、薬剤の副作用回避や治療効果のモニタリングに必要なフィジカルアセスメントとPOCTに関連する臨床実習を行う。 ② 実習期間中に、大学教員は巡回指導を行い実習の進展を図るとともに、提携医療施設の指導者と共同で、医療現場で生じる薬剤関連の問題解決に向けた課題設定と解決方法について指導する。 ③ 具体例として、高齢者に対するフィジカルアセスメントを活用した薬効評価および副作用の未然回避を目的とした研究等を実施する。例えば、薬物治療設計・管理学分野の「急性期薬物治療管理学特論」を受講し、且つ「ライフステージに応じた急性期薬物治療管理に関する研究」を研究テーマとした大学院生については、三重ハートセンターにおいて臨床研究に必要な理論と技能を修得し、その成果を本学に設置してある高機能患者シミュレータを用いて再現させ、薬剤副作用の未然回避に必要な臨床実践シミュレーション教育方法の開発研究に発展させる。 また、薬剤師の資格を有し医療機関に勤務する社会人大学院生の場合は、勤務している職場で生じたフィジカルアセスメントに関連する課題を大学院での研究テーマとする。 以上のように、本学の教員（実習担当教員・課題研究担当教員）と臨床現場の医師や薬剤師が連携して大学院生の研究指導に当たり、その成果を臨床に還元する。 ④ 大学と職場間の連携に必要なコミュニケーション手段として遠隔会議システムなども活用する。 ⑤ 学生は、臨床実習総括レポートを作成する。
評価方法	次の①～③を併せて総合的に評価する。 ① 出欠状況 ② 臨床実習総括レポートの内容 ③ 実習目標への到達度